

障害者支援施設 希望の森 地域移行等意向確認の指針

1. 目的

本指針は、障害者支援施設 希望の森において、利用者一人ひとりの日常生活や社会生活の意向を適切に把握し、尊重しつつ、その意向に沿った支援を行うことで、可能な限り自ら選んだ地域や住まいで安心して自分らしい暮らしが実現できるようにすることを目的とする。

2. 基本方針

- ・利用者の自己決定権を尊重し、本人の希望を中心とした支援を行う。
- ・意向確認は一度きりのものではなく、継続的・定期的に行う。
- ・地域移行は、本人・家族・支援者等の協働のもと、段階的・計画的に進める。
- ・地域移行に必要な情報提供と選択肢の提示を行う。
- ・地域生活移行後も、必要に応じた継続的支援を確保する。

3. 意向確認の対象者

- ・施設入所利用者全員を対象とする。
- ・特に、長期入所者、若年者、自立可能性のある方などについては重点的に確認する。

4. 意向確認の実施方法

- ・初回確認：入所時に地域生活に関する意向を初回確認。アセスメントシートを活用する。
- ・定期確認：年1回以上、本人・家族との面談を通じて意向を再確認。
- ・臨時確認：本人の状態変化、家族状況の変化、地域資源の拡充等に応じて随時確認を行う。

5. 意向確認の内容

- ・地域での生活希望の有無、時期、生活スタイルの希望
- ・必要と考える支援内容（医療、生活支援、金銭管理等）
- ・地域移行に対する不安や懸念
- ・地域での住まいの希望（グループホーム、単身、家族との同居など）
- ・家族の意向や協力体制の有無

6. 意向確認の記録と共有

- ・意向確認内容は記録し、本人の個別支援計画に反映する。
- ・チーム会議で共有し、施設全体で支援方針を確認する。
- ・必要に応じて関係機関（市町村、相談支援専門員等）と情報を共有する。

7. 地域移行に向けた支援体制

・地域移行等意向確認担当者（サービス管理責任者もしくは主任生活支援員とする。）を配置し、関係機関と連携を図る。

- ・体験的な地域生活（外泊、短期入所等）を活用した段階的支援を行う。
- ・グループホームや地域の生活支援資源とのマッチングを行う。
- ・地域移行後のフォローアップ支援（定期訪問、連絡体制の確保）を整える。

8. モニタリング・見直し

- ・地域移行の進捗や意向の変化をモニタリングし、柔軟に支援内容を見直す。
- ・年度ごとに意向確認の実施状況・地域移行の実績を検証し、指針の見直しを行う。

9. その他

- ・本指針は職員全体に周知徹底を図り、日々の支援に活用する。
- ・法令及び国・都道府県の通知等の変更に応じて、適宜見直しを行う。